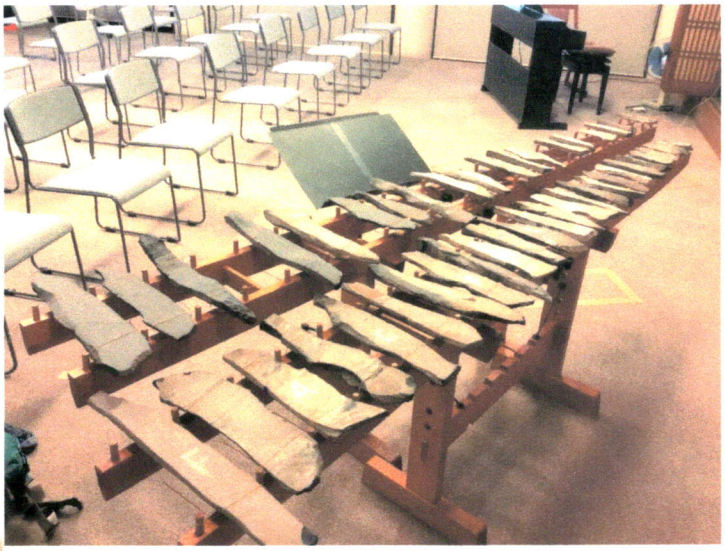
サヌカイトの夕べ

去る６月29日（土）の午後７時～徳成寺において、「サヌカイトの夕べ」演奏会が行われました。当日は、ありがたくも梅雨の晴れ間となり、県内各地より大勢の皆さんがご参加くださいました。

この日演奏して頂いたのは、臼杵美智代さんと長田順子さんです。高校生の頃からの長年のお友達同士でサヌカイトとピアノの息がピッタリ合っていました。臼杵さんの後ろには、衣紋掛にサヌカイトをぶら下げて、演奏できるようにしておられ、衣紋掛に懐かしさを覚えました。

ご覧ください。右の写真が実際に演奏に用いられたサヌカイトです。かつお節が並んだようなと臼杵さんが説明しておられましたが、全くその通りでした。

このサヌカイトは、今から1300万年前に火山の大爆発によって出来、国分寺町の今は亡き長尾住職によって楽器として見出されたのが最初だったそうです。今でも長尾住職さんの子孫の方によって製作が続けられていて、もっと平たく木琴のようになりませんか？と尋ねたら、土に眠るままの楽器という信念だそうです。



バチの種類によっても、音色が全然変わるのも面白いところです。鹿の角をバチにしているものや、小さい木槌のようなもの、そして白いクッションを巻いたものなど、何種類も使い分けて演奏しておられました。

中でも、津軽三味線を再現する演奏があり、あの高音でもサヌカイトが頑張って音を出すのがとてもけな気でした。

オリジナル曲の「こもれび」の澄んだ音色にいつまでも聞いていたくなるようなうっとりした気持ちに一同なりました。

衣紋掛のサヌカイトも大活躍し、「金毘羅船船」で最後は大いに盛り上がりました。演奏後は、参加者の皆さんが初めて見る楽器としてのサヌカイトに興味津々でお集まりになりました。カンカン石が、こんな素晴らしい楽器になるとは、古代の石と先人の遺徳に遠く思いを馳せました。